

## 植物工場先端技術シンポジウム

## 施設園芸におけるDXの取り組み2023

日時 令和5年2月21日(火) 14:00~16:00

場所 オンライン形式

(配信元：愛媛大学・豊橋技術科学大学)

参加費 無料

(資料代別：1,000円)

定員  
100名

## 開催趣旨

Society 5.0型農業生産の具現化と農業生産におけるSDGsを同時に達成しつつ、若者が魅力を感じるスマート農業の地域実装を進める必要がある。栽培面積が20~50aの中小規模施設園芸においても、産地全体の環境制御・栽培管理技術の向上を目的として、生育状態の見える化を含んだデジタルトランスフォーメーション(DX)が試行され、中小規模施設に最適化された生育データ活用方法も醸成されつつある。また、地方創生や地域活性化の基盤技術として地域の施設園芸栽培ノウハウをDX化して新規就農を支援する取り組みも見られる。本セミナーでは、このような地域の生産者グループにおける施設生産DXの現状について紹介する。

## &lt;次 第&gt;

総司会：藤内 直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)

14:00 開会の挨拶 有馬誠一(愛媛大学植物工場研究センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授)

## 「生産現場での利用が進む生体情報計測技術」

高山弘太郎(愛媛大学大学院農学研究科 教授、豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授)

「トマトの光合成蒸散・生育調査データの共有と  
環境制御・栽培管理の改善」

藤内直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)

## 「スプレーマム(キク)生産におけるDXの取り組み」

山田裕也(JAひまわりスプレーマム部会青年部 生産者)

## 「キュウリ生産におけるDXの取り組み」

下村堅二(JA西三河きゅうり部会改革プロジェクトサブリーダー 生産者)

15:55 閉会の挨拶 羽藤堅治(愛媛大学植物工場研究センター 副センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授)

16:00 閉会

主催 一般社団法人日本施設園芸協会、愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

後援 日本生物環境工学会 東海・四国支部、日本生物環境工学会生物生体計測部会、「知」の集積と活用の場産学官連携協議会 スマート・メガスケール植物工場研究開発プラットフォーム、CIGR(国際農業工学会) Plant factory and intelligent greenhouse WG、愛媛大学社会連携推進機構研究協力会スマート農業研究部会、植物生体情報DXによる栽培ノウハウの継承コンソーシアム(愛媛県デジタル実装加速化プロジェクト「トライアングルエヒメ」採択事業)

事務局 愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

問い合わせ先

愛媛大学植物工場研究センター人材育成プログラム(担当：神野・間宮)

☎ 089-946-9901 E-mail:zinzai@agr.ehime-u.ac.jp

申込み  
フォーム  
URL<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo2/mpmailec/form.cgi>

参加申込フォームより、お申し込みください。折り返し、受講料のお振り込み方法をメールにてご案内いたします。お振り込みの確認が取れましたら受付完了メールを送付いたします。講義前日までに、講義資料とweb受講URLのご連絡をいたします。  
申込締切：令和5年2月17日(金)正午

お申込みは  
こちら